

学習指導計画

岡崎西高等学校

教科(科目)	数学(数学 I)		授業者	藤田 知充
日時	平成28年 7月 15 日(金) 第4限	対象・場所	1-2 教室	
単元 本時の位置	第2章 第2節 2次関数の値の変化(7時間) 3. 2次関数の最大・最小 (本時6/7)			
論理的思考 の観点	「場合分け」については異なる単元で学習した。今回は初めて学習する文字を含む2次関数の「場合分け」について、グループ活動及び言語活動を通じて「場合分け」についての理解を深める。			
指導 計画 ・ 本 時 の 過 程	導入	これまでの授業で習った内容「場合分け」、「2次関数の最大値・最小値」を応用することで今回の問題が解けることを伝え、今回は解法を自分たちで発見することを伝える。		
	展開	<p>前回の授業内容(最小値の場合分け)を確認し、プロジェクターを利用して最小値について、軸の動きでどのように変化していったかを確認する。(5分)</p> <p>4人グループを指定し、個人用のプリントとグループ用のワークシートを配付し、ワークシートに沿って質問についてグループで話し合い、解答を作成する。(10分)</p> <p>机間巡視を行い、話し合いの途中経過を確認しながら、ワークシートの1つめの質問についてグループの代表者に発表させる。(10分)</p> <p>生徒の解答を確認しながら、プロジェクターを利用して解説を加え模範解答を作成する。(10分)</p> <p>問題演習を行う。(10分)</p>		
	まとめ	最大値がどこで変わるのかを確認し、どこで場合分けをする必要があるか再確認し、解ききれなかった問題は宿題にするよう伝える。(5分)		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・解答が3つの場合によって分けられることを理解している。 ・それぞれの場合について最大値を求めることができる。 ・学習活動に積極的に参加している。 			
反省	<p>生徒も教員もグループワークに不慣れであり、指示がより具体的でない生徒の活動がうまく進まないことが分かった。</p> <p>話し合いをうまくさせるには、ワークシートの質問内容をより細かく丁寧にする必要があると感じたが、そうするとほとんど教員が誘導してしまい、グループワークの必要性がなくなってしまうと感じた。</p> <p>しかし、視覚教材を利用することで生徒の理解は深まった。</p>			